

2024年度学内バリア調査結果

障害学生支援室

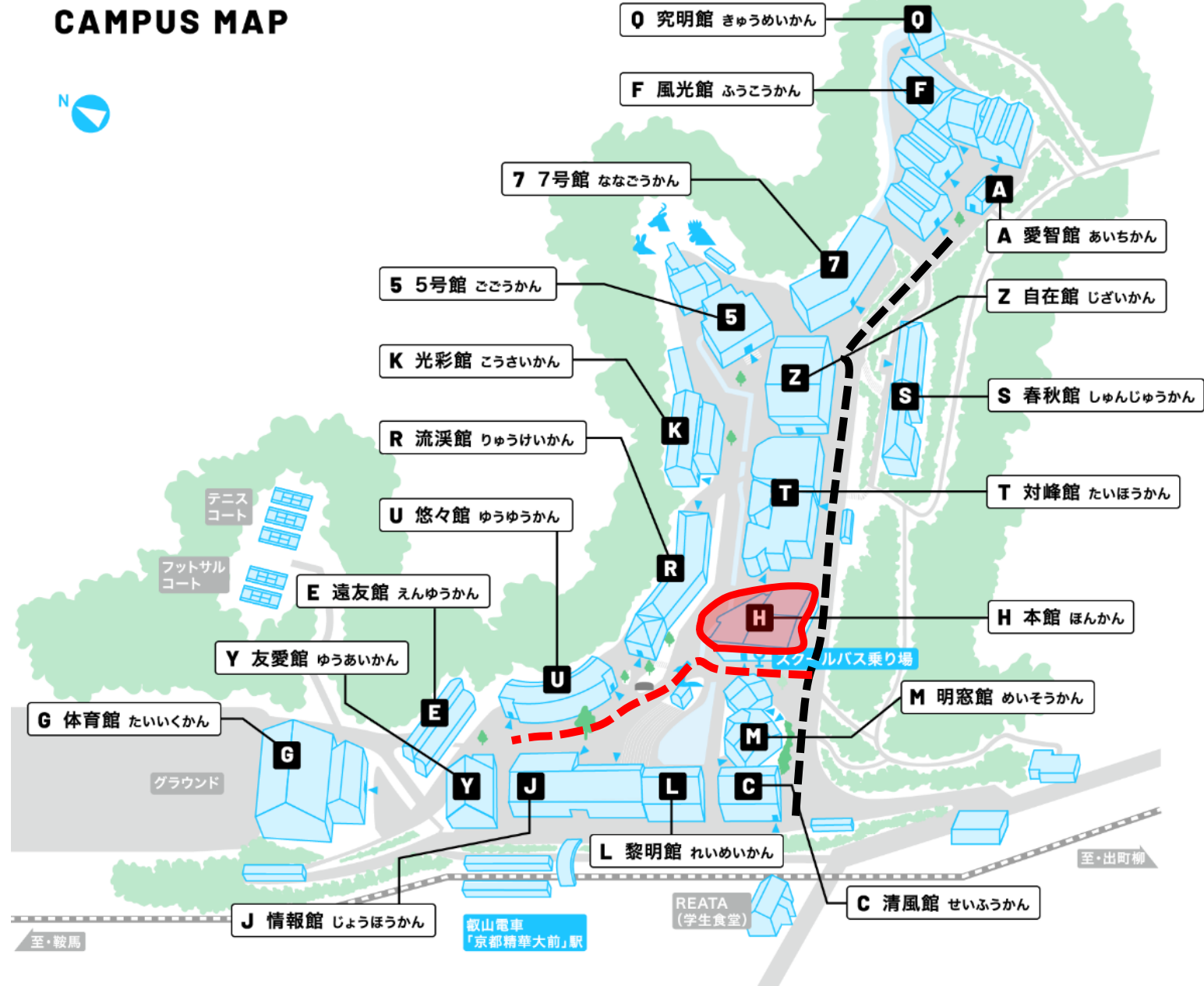
※5号館については建て替えが決まっているため、5号館の障壁に関する指摘は本資料には含めていない。

①改修・改善の必要性・優先度が特に高い箇所

アクセスする人数の多い箇所、使用頻度の高い箇所については、特に改修・改善の必要性があるものと考えます。具体的には、本館、南北をつなぐ動線、西東をつなぐ動線は、車いす利用者がアクセスする機会も多いと考えられるため、改修や代替手段についての検討を速やかに進めていくことが望ましい。

(スライド3の赤枠・黒点線・赤点線部分)

CAMPUS MAP



①-1

調査概要

施設名称	本館～対峰館
問題となる設備	通路
問題点	<ul style="list-style-type: none">・建物間の動線上にスロープがないため、車いす利用者が通行することはできない。・本館⇄自在館手前までのバリアフリーな動線が一本確保できれば、通行車両や天候に左右されることなく安全に移動ができる。



現況写真



①-2

調査概要

施設名称	本館北側
問題となる設備	スロープ及び階段部分
問題点	<ul style="list-style-type: none">・スロープはあるが傾斜が急なうえ、昇降が連続している。交通量のある通路沿いにあるため、危険がある。・隣接する階段部分を除去し、全面を緩やかな傾斜とする方が安全である。



現況写真



①-3

調査概要

施設名称	究明館・風光館・愛智館・7号館周辺
問題となる設備	外通路
問題点	<ul style="list-style-type: none">・ 外通路の敷石に破損、欠け、剥がれなどのある箇所多数。・ 車いす通行時には、車体が不安定になりやすい上、車体が故障するリスクもある。・ 敷石は雨天時に滑りやすい。



現況写真



①-4

調査概要

施設名称	風光館
問題となる設備	1階ABブロック東側出入口
問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺の路面には凹凸や敷石の破損多数。 ・ 進入部に7cmの段差があり、スロープもないため自力での進入は難しい。 ・ 出入口の開き扉が重たい。

現況写真



F 風光館



①-5

調査概要

施設名称	本館東側（バス降車位置）
問題となる設備	グレーチング
問題点	・グレーチングの間に4.5cmの隙間があり、車いすのタイヤが取られたりパンクをしたりする可能性がある。



現況写真



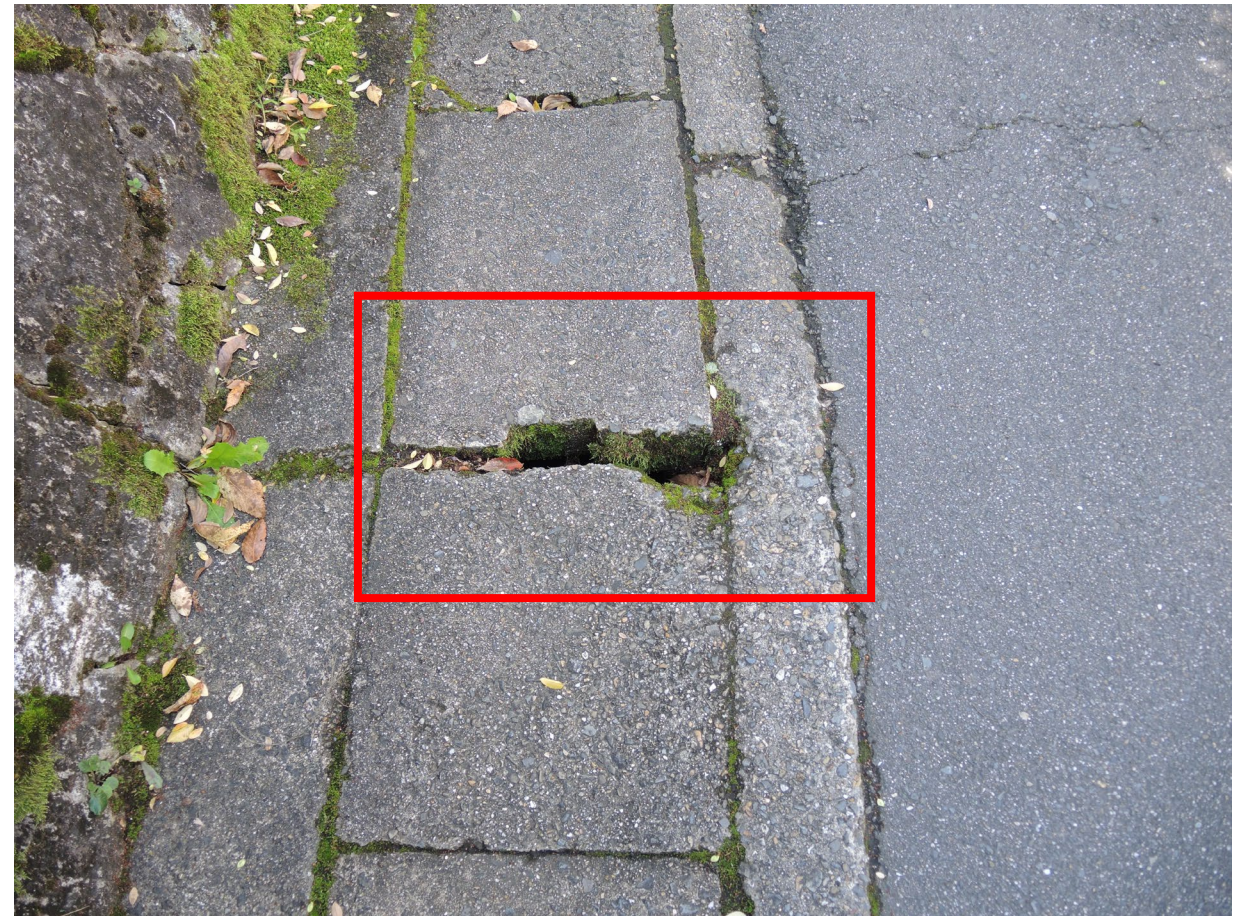
①-6

調査概要

施設名称	春秋館から7号館までの動線
問題となる設備	通路上の側溝
問題点	<ul style="list-style-type: none">・側溝に6 cm×10cm程度の穴が開いている。・夜間照明の真下なので、死角となって気づきにくい。



現況写真



①-7

調査概要

施設名称	自在館から春秋館までの動線
問題となる設備	登り坂の右端側
問題点	<ul style="list-style-type: none">・ 25cm×25cm程度の窪みがある。・ 道の端だが、照明の真下になり夜になると気づかない可能性が高い。



現況写真



②アクセスに支障が生じている箇所

流溪館、光彩館、春秋館、究明館には建物内にエレベーターが設置されていない。これらの建物においては、車いす利用者が階を移動することが困難なため、代替手段の確保も含め、改善に向けた検討を行うことが必要である。

また、スロープはあってもその先の段差によりアクセスが困難な箇所、通行幅が狭いため通りづらい箇所、傾斜があり通行することが難しいと思われる箇所等もあった。

本学のキャンパス内には傾斜や段差が多いが、今回の調査により、2～3cmの段差であっても障壁となり得ることを確認することができた。不自由なく移動できる人にとっては大きな問題にならない箇所であっても、車いす利用者にとってはアクセスの支障となっている。

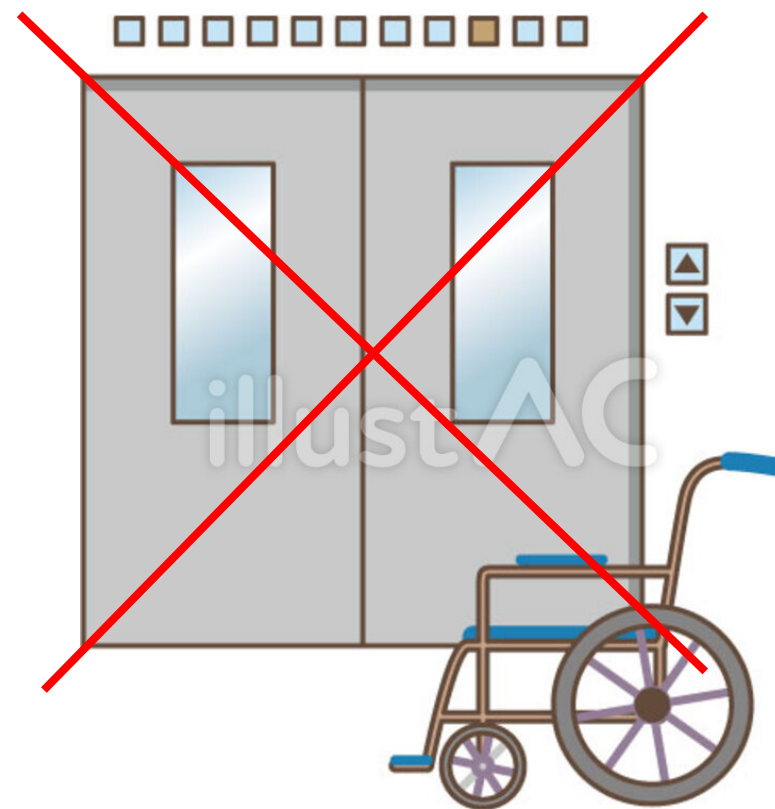
②-1

調査概要

施設名称	流溪館・光彩館・春秋館・ 究明館
問題となる設備	エレベーター
問題点	・施設内にエレベーターがない ため、車いす利用者は1階より 上の階に移動することができな い。



イメージ



②-2

調査概要

施設名称	光彩館
問題となる設備	地下階入口
問題点	・ 入口2箇所にて6 cmと7 cmの段差があり、自力では車いすで入れない。



現況写真



②-3

調査概要

施設名称	7号館
問題となる設備	北側スロープ
問題点	・建物北側にスロープがあるが、出入口に5.5cmの段差があるため、自力で建物内に入ることは難しい。



現況写真



②-4

調査概要

施設名称	春秋館
問題となる設備	出入口
問題点	<ul style="list-style-type: none">・スロープはあるが、雨天時には敷石が滑りやすくなっており、自力で昇降することが難しい場合がある。

現況写真



②-5

調査概要

施設名称	風光館
問題となる設備	東側スロープ（1階DC進入口）
問題点	・スロープを通過してきても、出入口に25cmの大きな段差があるため、車いすでの進入は難しい。



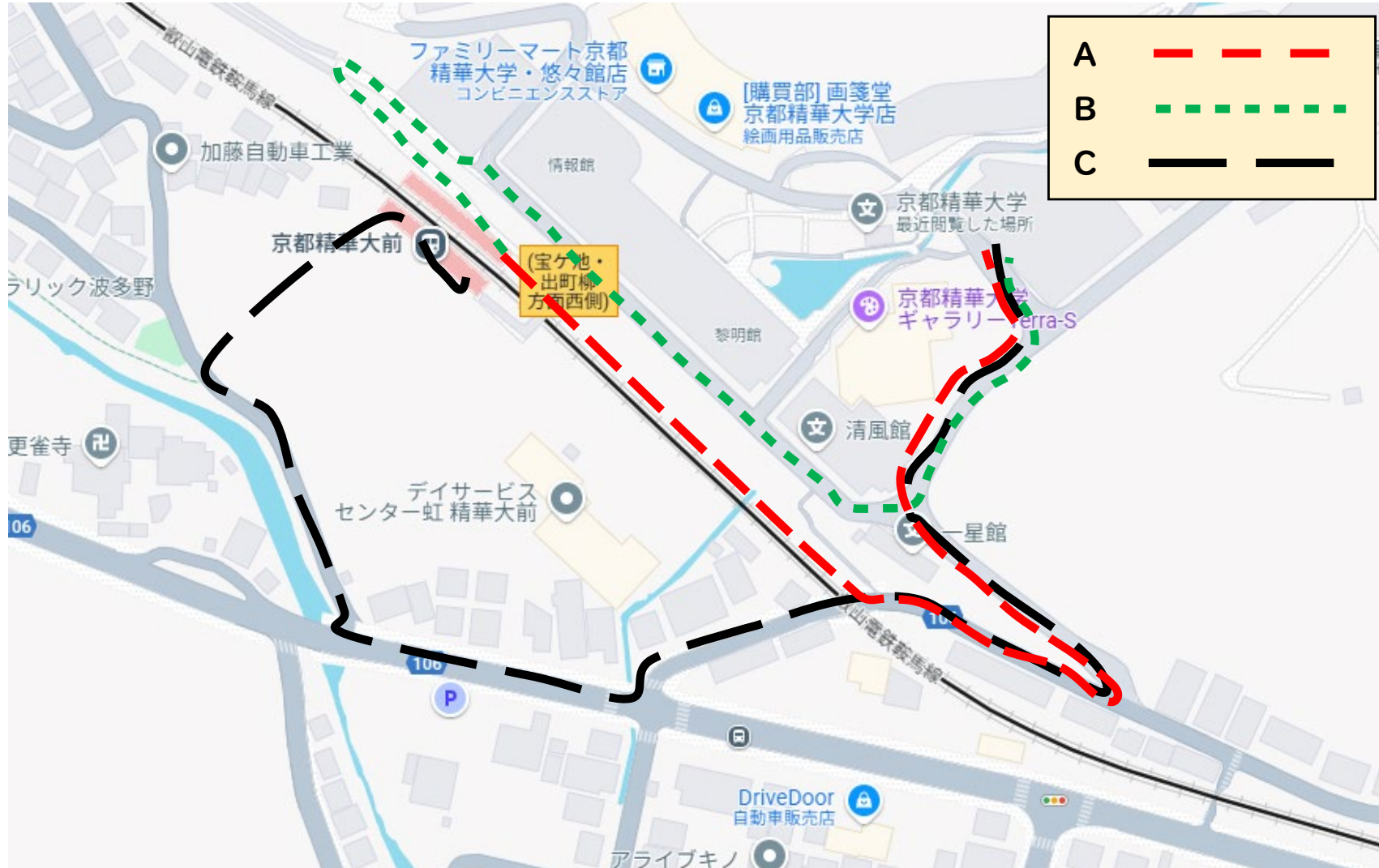
現況写真



③キャンパスから叡山電鉄「京都精華大前」駅までの アクセシビリティの改善が必要な箇所

叡山電鉄を利用している学生、教職員、来校者は少なくない。車いす利用者が駅と大学との間をどのように行き来しているのかについて調査したところ、多くのバリアが存在していることが確認できた。現在、駅と大学（本館）を繋ぐ動線には次の3つのルートが存在するが、いずれの場合も移動に約10～15分を要した。移動に時間がかかる、動線上に危険な箇所が多い、通れない箇所がある、急勾配であるため単独での移動は不可能である等の現状に鑑み、今後の改善に向けた検討を着実に進めていくことが望ましい。

叡電のホームとキャンパスを繋ぐ3つのルート



③-1

調査概要

施設名称	学内～精華大前駅（出町柳方面）
問題となる設備	ルートA 動線上の各所
問題点	<p>一星館（警備員棟）からスクールバス車線に沿って一旦降り、自転車置き場を通過して秋（出町柳方面）に至る。</p> <p><u>→車両の通行に十分に留意する必要がある。坂道通行時には介助を要する。</u></p>

現況写真



③-2

調査概要

施設名称	学内～精華大前駅（出町柳方面）
問題となる設備	ルートB 動線上の各所
問題点	一星館（警備員棟）から友愛館方面に移動。バイク置き場から坂道を下って駅（出町柳方面）に至る。 <u>→途中に車止めのチェーンがあり、車いすが通行できない。坂道通行時には介助を要する。</u>

現況写真



③-3

調査概要

施設名称	学内～精華大前駅（貴船口方面）
問題となる設備	ルートC 動線上の各所
問題点	<p>一星館（警備員棟）からスクールバス車線に沿って一旦降り、踏切及び一般道路を通過後、職員駐車場横の通路を通過して駅（貴船口方面）に至る。</p> <p><u>→動線上の路面に多くの破損が見られ、移動には危険が多い。</u></p> <p><u>坂道通行時には介助を要する。</u></p>

現況写真



④その他、学内で取り組むべき事項 - 1 -

建築物におけるバリアフリー法への対応を踏まえ、一般的には「建物内通路の幅は、段がある部分及び傾斜路を除き、180cm以上とすることが望ましい」「主要な経路上の通路には、50cm以内ごとに車いすの転回に支障がない場所を設ける」ものとされている。今回の調査の中で、各建物内において資材や制作物等が通行の危険となったり、動線を塞いだりしている箇所が多数あった。本学は授業において様々な制作物等をつくることも多いため、制作の材料・資材の保管や作品の保管、展示スペースの確保も必要である。同時に、学生や来校者の安全性やアクセシビリティの確保もまた重要な観点であることから、今後は適切な管理や整備が望まれる。

④-1

調査概要

施設名称	風光館
問題となる設備	DCブロック1階通路
問題点	<ul style="list-style-type: none">・ 窯場横の通路は、サイドの棚にかなりの数の作品が積まれており、通行に問題はないが落下の危険があり怖さを感じる。



現況写真



④-2

調査概要

施設名称	風光館
問題となる設備	3階通路
問題点	<ul style="list-style-type: none">・ F-331から332前にかけての通路には作品が両端に展示されていて通路がとても狭くなっている。・ 3階は全体的に展示が多く、通りづらい箇所が多い。

現況写真



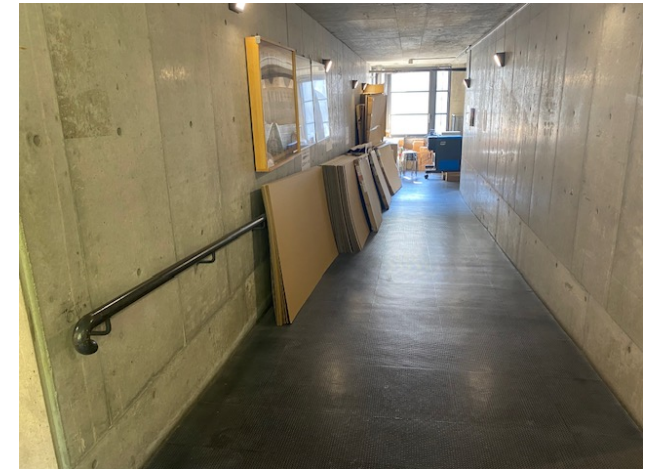
④-3

調査概要

施設名称	風光館
問題となる設備	3階通路
問題点	<ul style="list-style-type: none">・ F-311、312の前の通路は、真ん中に作品が展示されており、通行しづらい。・ さらに進んだところにあるスロープには資材が立て掛けてあり、手すりが使用できない状況になっている。



現況写真



④-4

調査概要

施設名称	風光館
問題となる設備	1階 みんなのトイレ
問題点	・ 出入口周辺の壁に資材等が立て掛けてあり、通行時に危険であった。



現況写真



④-5

調査概要

施設名称	7号館
問題となる設備	1階及び2階 通路
問題点	<ul style="list-style-type: none">・1階通路には荷物がたくさん積まれており、崩れてきたら危険である。・2階通路端にも荷物がたくさん置かれており、通行幅に差が生じている。



現況写真



④-6

調査概要

施設名称	対峰館
問題となる設備	4階及び5階通路
問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に、通路にロッカーや荷物が連なって配置されており、荷物が落下した場合の怖さを感じる。 ・ 5階通路に置いてあるものについては、一部通行の妨げにもなっている。



現況写真



④-7

調査概要

施設名称	清風館
問題となる設備	地下1階 通路
問題点	・扉前に作品展示用の長机が置いてあり、車いすでは通行しづらい。



現況写真



④-8

調査概要

施設名称	友愛館
問題となる設備	2階 Y-203
問題点	・FC室前作業場はマネキンや洋服掛けが置かれているため、通路が狭く、通行の妨げになっている。



現況写真



④-9

調査概要及び改善点

施設名称	明窓館
問題となる設備	3階 ディスカッション1
問題点	<ul style="list-style-type: none">・ギャラリー用の傘立てが置いてあるため、教室に出入りする際は、車いすを慎重に操作しながら移動する必要がある。



現況写真



④-10

調査概要

施設名称	7号館
問題となる設備	2階 通路
問題点	<ul style="list-style-type: none">・バリアフリートイレに行くまでの通路に備品や資材が置かれている。・複写機のある位置は通路幅が78cmであり通行に支障が生じる可能性がある。



現況写真



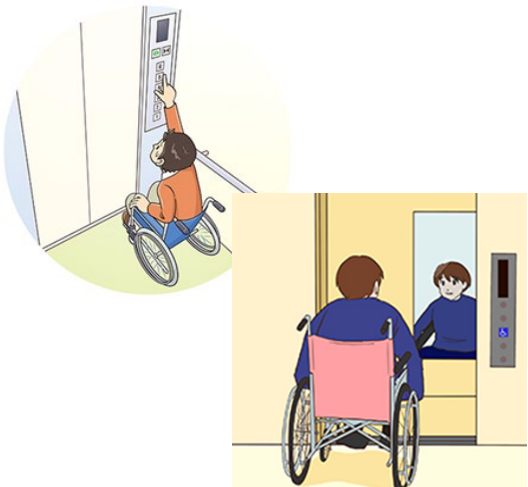
④その他、学内で取り組むべき事項 - 2 -

建築物におけるバリアフリー法において、建築物の出入口の幅が80cmであることが、車いすの通れるサイズであると示されている。また、扉の形状については、開き戸よりも引き戸であること（できれば自動開閉）、その前後に水平のスペースが確保されていることが望ましい。今後、扉やエレベーター、トイレ等の設備を新たに整備又は交換するには、以下の調査結果を踏まえて適切に対応することが望まれる。

④-11

調査概要

施設名称	風光館
問題となる設備	エレベーター
問題点	<ul style="list-style-type: none">・ 内部に鏡がなく、出る時に後方が確認できない・ 車いす用のボタンがない。・ 閉まるのがとても早い（2～3秒）ため、乗り降りしている途中に勝手に閉まる。



現況写真



④-12

調査概要

施設名称	7号館
問題となる設備	エレベーター
問題点	<ul style="list-style-type: none">・車椅子用のボタンがなく、手は届くがボタンの位置が高い。・閉まるのがとても早い（1~2秒）ため、乗り降りしている途中で勝手に閉まる。・内部には鏡がなく、狭いためターンすることができない。・入口の幅は80cm程度。



現況写真



④-13

調査概要

施設名称	7号館
問題となる設備	1階教室 扉
問題点	<ul style="list-style-type: none">・引き戸に片開きの開き戸が埋め込まれた特殊な形状。・引き戸を全開にしたら段差がなく、車いすでも通行可能になるが、かなり大型であるため自力で全開にすることはできない。



現況写真



④-14

調査概要

施設名称	本館、自在館、対峰館、流溪館、光彩館、7号館、春秋館など
問題となる設備	開き戸のストッパー
問題点	<ul style="list-style-type: none">・ストッパーのない教室が多数。・ブロックや置き石は重くて動かしづらい。・ストッパーがあっても自力ではセットできない（周囲の人からのサポートが前提）。

現況写真



④-15

調査概要

施設名称	光彩館
問題となる設備	館内全体
問題点	・みんなのトイレがない。

現況写真



④-16

調査概要

施設名称	対峰館
問題となる設備	1階 みんなのトイレ
問題点	・スライドドアが自動的に閉まってしまったため、出入り時には片手や肩で扉を押さえながら車いすを操作する必要があった。



現況写真



④-17

調査概要

施設名称	本館
問題となる設備	1階及び3階 みんなのトイレ
問題点	・内部に備え付けの鏡がない。



現況写真



④-18

調査概要

施設名称	風光館・究明館西側
問題となる設備	外通路
問題点	・水路沿いにフェンス等がないため、夜暗い状態だと転落の危険がある。



現況写真



④-19

調査概要

施設名称	流溪館から光彩館に至る通路
問題となる設備	水路付近の坂道
問題点	<ul style="list-style-type: none">通路幅は80cmであり既定の幅をクリアはしているものの、水路沿いにフェンス等がなく、安全性には課題が残る。夜はさらに危険度が増す。



現況写真



④その他、学内で取り組むべき事項 - 3 -

明窓館には、ホワイエにアクセスするための車いす専用リフトが設けられている。利用のニーズに速やかに対応できるように、担当部署の連絡先等が明示されていると良い。

④-20

調査概要

施設名称	明窓館
問題となる設備	2階
問題点	車いす専用リフトの使用希望者に対して、学内の問い合わせ先（担当部署）が表示されていない。



現況写真

